平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	人間力概論 (Survey of Human Aptitude) 【経営経済学部】			授業コード	A030602
担当教員名	高見　大介、杉浦　嘉雄、坂井　美穂、吉村　充功、藪内　聰和			科目ナンバリングコード	A10209
配当学年	1	開講期	前期		
必修・選択区分	必修	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	特にありませんが、まじめに受講することです。				
受講心得	本学の教育理念の一つである「人間力の育成」の基礎となる重要な科目です。真剣に受講して下さい。また、学部合同講義で受講生が多いため、私語など他の学生の迷惑になる行為は慎んで下さい。本授業では、「クリッカー」を使用した双方向型授業を実施します。積極的に参加し、理解を深めて下さい。				
教科書	特に無し				
参考文献及び指定図書					
関連科目	現代社会要論、社会参画入門、社会参画実習1、社会参画応用、社会参画実習2、その他すべての科目				

授業の目的	本学における教育の特徴は教育理念にも掲げている通り「人間力の育成」にあります。本学の「人間力教育」は社会、地域に出て活躍するために必要な汎用的なスキルや能力、即ち「社会人基礎力」と、実社会で力強く心豊かな人生をおくるための「こころの力」の育成を目指しています。 「人間力概論」は「自分らしさを見つけ、人間関係を築くための知識とこころの力」をつける最初の導入となる講座です。したがって、人生のベースとなる「生命(いのち)」あるいは「生きる」ということについて、社会や地域との接点から自分の役割を強く意識させ、「人間として現代社会をどう生きるか」を自分なりに考えられるようになることを目的とします。
授業の概要	「人間として現代社会をどう生きるか」「よき市民として地域社会をどう生きるか」をその意義や考え方について、各教員が様々な切り口から講義します。学生諸君に「自分らしく生きること」を強く意識させ、さらには大学生活を通じ、そして社会に出てからも「自分らしい生き方」を探究し続けていくためのきっかけとなる講義を目指します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： スタートアップセミナー	
第 2 週 ： 授業概要説明、担当者紹介、科目意識アンケート実施 授業の概略を説明します。クリッカーを使用します。	シラバス等の資料について読み込んできてください(1時間)。
第 3 週 ： 本学における人間力教育とは(自校教育) 経営経済学部長・学長室長から新入生へのメッセージ。本学で伸ばしてほしい人間力などについて講義があります。	学修内容について復習を行って下さい(2時間)。
第 4 週 ： EQアセスメント・UPIテスト 現在の皆さんの人間力(EQ)を客観的に測るnEQアセスメントテストを実施します。また、健康状態などをアンケートするUPIテスト等も合わせて実施します。	
第 5 週 ： 高見担当:ボランティアと人間力	レポート課題があります。学修内容について復習を行って下さい(2時間)。

講義テーマ：ボランティアと人間力 1週目－自分を鍛える編 　ボランティア学習の観点から、実経験に基づく人間力を構成する力について考えていきます。グローバルに物事を考えていくことは、国内外の文化や歴史を理解することにもつながります。自分の成長に向けて、これからの大学生活の過ごし方を考えるキッカケにします。	

第 6 週 ： 高見担当:ボランティアと人間力 2週目ー社会に出る編 　前週に引き続き、実経験に基づいたこれから身に付けるべき人間力について考えていきます。なぜ学ぶのか、何を学ぶのか、先輩達の人間力育成プロジェクトの紹介を通じて、考えています。	レポート課題があります。学修内容について復習を行って下さい(4時間)。
第 7 週 ： 藪内担当:「幸せ」を求めて 講義テーマ:「幸せ」を求めて 1週目ー「幸せ」とは何だろう 　古来、多くの思想家が「幸せ」について思索し、「幸せ」を人生の目的であると考えてきました。この授業では、様々な思想家の「幸福論」をとりあげ、「幸せ」とは何かを考えます。	レポート課題があります。学修内容について復習を行って下さい(2時間)。
第 8 週 ： 藪内担当:「幸せ」を求めて 2週目ー働く「幸せ」と「幸せ」のパラドックス 　「働く」ことを、単に報酬を得るための手段であると思っている人も多いようです。しかし、「働く」ことは、人間の本質であり、充実した人生は、生き生きと「働く」ことによって可能になると考えることもできます。そこで、この授業では「働く幸せ」について考察します。また「幸せ」のパラドックスの概念についても説明します。	レポート課題があります。学修内容について復習を行って下さい(4時間)。
第 9 週 ： 吉村担当:現代社会と人間力 講義テーマ:現代社会と人間力 1週目ーいまなぜ人間力か？ 　現代は予測不可能な社会だと言われています。そのため、学校で習った知識だけを修得しているだけでは社会では活躍ができません。技術系・理系学生に求められることに主眼を置いて、現代社会で必要な人間力について理解を深めていきます。	レポート課題があります。学修内容について復習を行って下さい(2時間)。
第10週： 吉村担当:現代社会と人間力 2週目ー先輩達の活躍と大学で学ぶ意義 　本学卒業生が身につけている能力・不足する能力を就職先企業アンケートから読み取り、現代の若者に必要な能力を理解します。また、全国調査をもとに、大学へ進んだ意味と社会を力強く生きていくために必要なことを自分の意見として考えていきます。クリッカーを使用します。	レポート課題があります。学修内容について復習を行って下さい(4時間)。
第11週： 杉浦担当:“絆”を求めて 講義テーマ ：“絆”を求めて～自然とふるさととのつながり方を考える 1週目ー宇宙と自分「宇宙・銀河系・太陽系・地球、そして自分」 　「正しく強く生きるとは・銀河系を自らの中に意識して・これに応じて行くことである」宮沢賢治は『農民芸術概論綱要』の中でこのように言っています。人間力とは「正しく強く生きる」力そのものと言ってよいでしょう。ここでは、宮沢賢治に習い、宇宙・銀河系・太陽系・地球・生命圏を自らの中に意識して、自分との関係を体感していきましょう。	レポート課題があります。学修内容について復習を行って下さい(2時間)。
第12週： 杉浦担当:“絆”を求めて	レポート課題があります。学修内容について復習を行って下さい(4時間)。

2週目－故郷と自分「自然と共生した故郷とは？」 「…あらゆるものはつながっている。いのちの網を編んだのは人間ではなく、人間はその中の一本の縄にすぎない…」これは、ネイティブ・アメリカンの魅力ある言葉の一節です。自然との共生とは、まさに「人間」も含む多様な生き物たちの「いのちの網」を大切にしながら生きていくことです。この感性を活かした「故郷（ふるさと）づくり」を具体的に紹介することで、「人間力」のキーワード「思いやり・夢・希望・勇気」を考えましょう。	
第13週： 吉村担当：地域社会と人間力 現代は地方の時代と言われていますが、少子高齢社会が急速に進む地方においては、一人一人の存在が大切になっており、その地域でどのように生きていくか、地域社会とどのように関わっていくか、自分なりの考えを持ち、実際に行動することが重要となっています。地域における学生活動の意義や、地域社会で生きていくために必要な社会との関わり方について理解します。クリッカーを使用します。	レポート課題があります。学修内容について復習を行って下さい(2時間)。
第14週： 人間力の伸ばし方（EQアセスメント解説） 第4週で実施したEQアセスメントの結果について、読み解き方を解説するとともに、今後の行動計画の立て方について講義します。	学修内容について復習を行って下さい(2時間)。
第15週： シンポジウム 全担当者と学生の皆さんがシンポジウム形式で、現代社会で生きる意味について考えます。クリッカーを使用します。	レポート課題があります。学修内容について予習・復習を行って下さい(4時間)。
第16週：	

授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考	ワークシートについては、原則、翌週以降の授業で返却します。 本授業の講義風景は動画で録画しています。学内のパソコンからインターネット経由で視聴できます(http://moodle.nbu.ac.jp/moodle/)。自主学修に積極的に活用して下さい。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	社会に関心を示し、人間として現代社会を力強く生きようとする意欲を身につけている。
【知識・理解】	社会で求められている人間力が何かを理解できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	人間として現代社会や地域社会をどう生きるかの自分なりの考えを適切に表現することができる。
【思考・判断・創造】	人間として現代社会や地域社会をどう生きるかを自分なりに考えることができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		20点		
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		20点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		30点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		30点		

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	4人の担当者毎に課すレポートと最終レポートを評価します。 担当者1人20点×4人＋最終レポート20点＝100点 最終レポートについては、到達目標をもとに採点基準をルーブリックとして第15週の講義で提示します。
発表・その他 (無形成果)	